



被災地の妊産婦さんとみなさんをつなぐ
東北こそだてレター (被災地の今...)

2013/6/18 配信 vol.10

～宮城県「みやぎげんき助産師チーム MIJO」の活動から考える、県の中心部からの沿岸部支援活動のあり方～

◆ 支援実績 (2013/5/31 現在)

<支援母子数>

5月: 434組 【計4,816組】

<活動場所>

岩手 (大船渡・陸前高田・釜石・大槌・遠野)

宮城 (石巻、気仙沼、亶理、名取)

福島 (いわき、相馬、南相馬)

<活動内容>

育児相談会/茶話会/ベビーマッサージ/ベビ体操/
ママのリフレッシュ体操/親子ピクス/仮設巡回訪問

みなさま、こんにちは。

一般社団法人ジェスペールです。

梅雨入りしましたが、この原稿を書いている時点では「今年も空梅雨かな?」と思わせられる空模様です。夏の水不足を心配したくないですから、降るべき時に降るべき量が降ってほしいですね。

さて、今月の「被災地から」は、宮城県「みやぎげんき助産師チーム MIJO」から、助産師の武者文子さんの生の声をお届けします。

武者さんは、沿岸部からの避難者に寄り添い、沿岸部で活動する際も被災者の状況に配慮した支援方法を模索しています。その人なりの立場での支援活動の形を考えさせてくれる文章をどうぞご覧ください。

◆ 被災地から ～「みやぎげんき助産師チーム MIJO」 宮城県全域

MIJO <http://www.geocities.jp/mijoteam/>

母乳育児相談室 まんまはうす (仙台市太白区長町) http://www.geocities.jp/mamma_house/

宮城県内の開業助産師有志による「みやぎげんき助産師チーム MIJO」。仙台市を中心に、県内全域で母乳マッサージや育児相談などのサロン活動を行っています。

代表の武者文子さんは、仙台市太白区長町の母乳相談室「まんまはうす」の助産師で、地元の市民センターで月に1~2回、ベビーマッサージサークルを開催中。その他、保育園や公民館、市民センターなどから依頼を受け、各地で育児相談やベビーマッサージなどのサークル活動を行っています。

仙台市と沿岸部、それぞれで支援活動をしている武者さんは、仙台市内にいる被災母子支援の必要性も、公園も遊び場もなくなってしまった沿岸部の母子支援の重要性も、両方強く感じています。それぞれの地で、どんな支援が求められているのか、考えながら読み進めてもらえたらうれしいです。

◇◆ 避難者の多い仙台市太白区

太白区は沿岸地域に隣接し、沿岸部から10kmほど内陸に入ったところにあります。地震の揺れの影響を強く受けた地域では、半分以上のマンションが半壊や全壊の認定を受けました。一軒家も全壊したところが多く、最近になって新築されてきています。



JR と地下鉄の駅、小さな商店や大きなスーパーなどもあって通勤、通学に便利のため、津波の被害を受けた方や、福島からの転入者が多く、大きな仮設住宅もある地域です。津波被害で家が全壊し、太白区内に新築したという家庭も少なくありません。

同時に、夫は福島に残って赤ちゃんとお母さんだけで暮らしていたり、夫が福島に通勤していて、1日のほとんどを母子だけで過ごしているケースもたくさんみられます。そんなお母さんたちの姿を見て、「転入してきた方のお友達作りを手伝いたい」という気持ちでサロンを始めました。

ここは仙台市の中でも一番南に位置している地域なので、はじめのうちは放射能を心配する声が多く聞かれました。小学校の校庭が除染の対象になったりして、ピリピリしているお母さんたちもたくさんいましたが、現在では心配している人は少ないように感じています。

2年経ち、落ち着いてきたかのように思われがちですが、最近になって辛さを表出する方もいらっしゃいます。両親とも津波で亡くなってしまったお母さんは、はじめのうちは「みんなが大変だから頑張らなくちゃ」と思っていたようですが、震災から2年が経過したいま、「育児の相談が実母にできないことがこんなにつらいことだったなんて……」と語ります。いまだに毎日、地震の時の話をお母さんたちとしています。

◆◆予約開始 10分で定員になるサロン

助産師サロンは、初めのころよりも参加希望者が増え、ニーズの高さを強く感じています。

仙台市内の子育て支援センターで開催するときには、いつも予約開始から10分ほどで定員になってしまいます。皆さん何回も来たがりますが、はじめの方を優先に受け付けるので、だいたい1回しか経験してもらえないのです。

支援している方も人手不足で、さらに自分の本来の仕事をしながらなので、なかなか時間もとれません。会場の場所が狭いために1回につき12組が精いっぱいということもあり、会場を変えて、1回あたりの人数を増やしていくなどの工夫が必要と考えています。



さらに宮城県内全域でやっていますが、小さい子供がいるため、遠いところには行きづらい助産師もいます。もっと多くのお母さんに参加してほしい、何度でも参加させてあげたい——。思いはあっても、それがなかなか実現できないというジレンマを抱えています

同時に、仙台市など津波被害のなかった地域での支援活動には理解が得にくく、なかなか補助がもらえないことにももどかしさを感じます。

津波の被災者支援というと、支援者の方の意識はまず沿岸部に向きます。私たちが仙台市内で活動しようとすると、「もっと沿岸部で活動してもらわないと、補助の対象にならない」と言われたりするのです。

でも、被災者は沿岸部だけでなく、仙台市内にもたくさん移動されてきているのです。

実際のサロンの時は、いま住んでいる地域は教えて頂きますが、一人ひとり、どんな背景があって、今ここにいるのかということまでは把握するのは難しいのが現実です。それでも、支援の手を差し伸べることができるよう、行政や皆さまには、そのあたりのご理解も得たいところです。

◆◆地元保健センターも動かした、南三陸でのサロン開催

先日、南三陸町の志津川でサロンを開催してきました。南三陸町は津波によって町そのものがなくなりました。スーパーもありません。日用品が買えないので、皆さん普段の買い物にも苦慮されています。

仙台市内のような子育て支援センターもないので、当日は仮設の保健センターのお部屋を借りました。午前中はベビーマッサージ、午後はお年寄りのイベント、というように、そのお部屋はいろんなイベントで使われます。つまり、お母さんと赤ちゃんがいつでも集まれる場所そのものがないのです。

仮設の町の施設が建てられているのは公園だったりテニスコートだったり。だから、公園もありません。遊べるところが本当にありません。

当日は7組の親子が集まりましたが、皆さんほかのお子さんを見ることで自分の子の成長を確認できた、と喜んでいました。被災地ほどサロンが必要だ、ということを感じた時間でした。

実は、ここでは数か月前に他の団体がベビーマッサージの募集をしたのですが、その時の参加者は0組だったそうです。そのため、今回も初めは保健センターの保健師さんたちも希望者はいないのではないかということで、忙しい業務の合間にベビーマッサージの募集まではとてもできないということでした。

そのため、今回はできるだけ現地の保健師さんの手をわずらわせないように、参加は志津川町の広報で募集して頂き、申し込みは仙台にいる担当者に直接してもらおうなどの気配りをしました。

その結果、被害の大きかった歌津町出身の3組の親子を含む7組の参加がありました。皆さんとても喜ばれていて、サロン後には保健センターの方から、「3か月に一回くらい実施してもらいたい」と声がかかったのです。



すでに今年度の日程が決まりました。仙台からは往復で4時間かかるため、その日は「1日かけて志津川で支援する日」と決めて予定を空けてあります。

震災から2年が経過しましたが、本当の被災地はがれきが片付いただけで、何も変わっていません。

私たちが試行錯誤を重ねながら支援活動を続けていきますので、みなさまも、今後ともご支援をどうぞよろしくお願いいたします。

◆ プロジェクト応援のお願い

ジェスペールの「東北こそだてプロジェクト」は、被災地の母子を支援する助産師の活動を支援しています。

皆様からいただいた温かいご支援は活動の原動力となっています。

被災地の母子を今後も継続してサポートしていくため、妊産婦支援に関するお志を同じくするお知り合いの方がいらっしゃいましたら、ぜひ下記サイトをご紹介ください。

<http://tohokumama.org/donation.html>

また、皆様からの励ましのお声も、現地の助産師や被災地で子育て中のお母さん、ジェスペールメンバーの力になります。ご寄付いただく際に励ましのお言葉を添えていただいたり、当メールマガジンへのご感想などをお寄せください。



発行者：一般社団法人ジェスペール

公式ホームページ：<http://tohokumama.org/>

Twitter：<https://twitter.com/tohokumama>

お問い合わせ先：info@tohokumama.org

Facebook：<http://www.facebook.com/tohokumama>

